

☆天文の基礎知識

冬のダイヤモンド(六角形)

星を気楽にながめるだけで特別に正確でなくてもいい場合は、標準的な1等星ばかりでなく、それより明るい0等星や-1等星なども含めて、みな1等星と言ったりします。

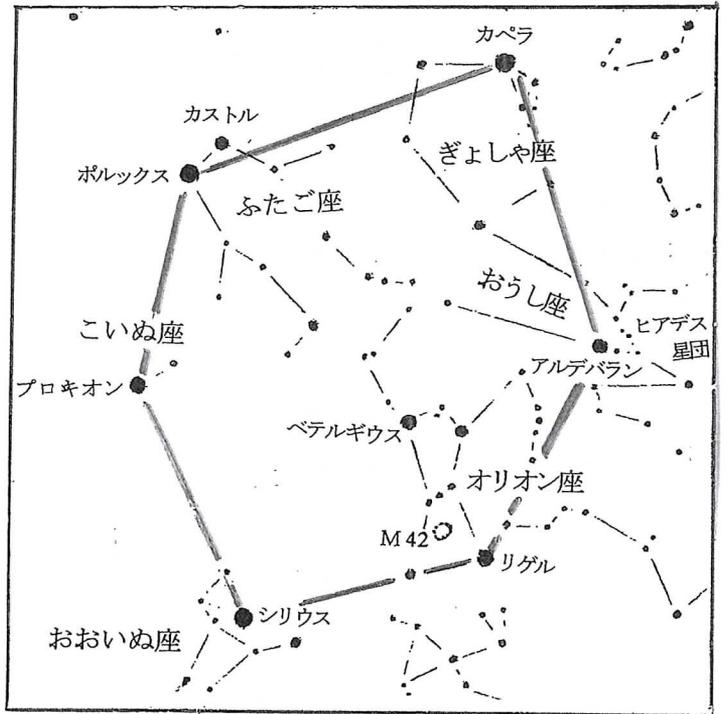
そういう1等星が全天で21個あります。

その21個の1等星は、空に現れる時刻が季節によってまちまちなので一気には見られません。

しかし、そのうちの7個が、冬、夕食後の夜空に右の図に示したように輝いているので、たいへん豪華な星空を眺めることができます。

7個の星は、オリオン座のベテルギウスをかこんで、ほかの6つつが六角形を描くように並んでいます。そこで、この六角形を冬のダイヤモンドと言っています。

冬の晴れた夜は寒いですが、6つつの星座にそれぞれ1つずつある1等星を結んで、六角形のダイヤモンドを描いてみてください。



☆ 銀河宇宙探検隊

令和3年最後の銀河宇宙探検隊「1年間のみとめと帰船式」が、11月28日(日)に黒石公民館で行なわれました。はじめに、「観察記録集」をもとに隊員が取り組んだ自宅観察の「1等星をさがそう」や「私の星座ノート」などを発表。スケッチしたようすや観察して分かったことなどを紹介しました。また、高校生の天文リーダーらによる、キャラクター・コンテストの決選投票では、六郷小5年の中村仁美さんの作品が選ばれました。

「帰船式」では、山内教育長さんから「これからも活動がんばって」とはげまされ、来年も活動を続けようと呼びかけあい終了しました。

昨年も新型コロナウイルスのため4回しか開催できませんでしたが、自宅での活動に意欲的な隊員が多く、とても充実した探検隊になったことが特徴でした。星や宇宙の世界に熱中する隊員たちの、春からの活動が楽しみです。

令和3年最後の活動を終える



ドキドキだったキャラクター・コンテスト投票のようす



今年も月食などのしみがいっぱい。がんばるぞ！